

沖縄県護国神社社報

# うむい23号

## 社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。





# 沖縄県護国神社に関わって五十年

沖縄県護国神社会長 座喜味和則



靖国神社・沖縄県護国神社（以下護国神社と略す）・沖縄県遺族連合会（以下遺族会と略す）の三団体は戦没者の慰霊顕彰と遺族の福祉増進を図る目的で関連の有る組織であります。護国神社は昭和十二年に招魂社として創建され沖縄県出身戦没者を祀っていましたが昭和二十年の沖縄戦で焼失されました。遺族会は昭和二十七年二月に結成されました。靖国神社への遺族団体参拝は遺族会事業として昭和二十八年十月の秋季例大祭から始まっています。

私は昭和三十年四月の春季例大祭に遺族四十七名を引率して団体参拝致しました。二行が東京駅に着きますと靖国神社池田良八権宮司様を始め関係者の大歓迎を受け、東京滞在中は靖国神社の神職の方々の手厚い世話を受け感激して帰郷致しました。以後昭和五十六年迄団体参拝を続けております。

毎回この様にお世話になり靖国神社と遺族会との深い繋がりが出来ました。昭和三十三年十月十六日に靖国神社奉賛会沖縄県本部（会長与儀達敏立法院議長）が結成され護国神社再建の気運が始めました。昭和三十三年二月二十五日挙行の「戦没者十三年忌追悼式」に始めて靖国神社宮司筑波藤磨様、靖国神社奉賛会会長北白川祥子様、同事務総長岩重隆治様が御参列、御二行のお世話を靖国神社団体参拝有志が当たりました。昭和三十四年四月二十六日に約七坪の護国神社仮社殿が再建され第二回春季例大祭が執行され、次いで同年十一月十五日に靖国神社池田権宮司外五名の神職によつて第一回秋季例大祭が斎行され御祭神は県出身戦没者と沖縄戦で戦没された各都道府県の戦没者合せて十七万七千九百余柱となりました。以後毎年十一月の秋季例大祭には靖国神社の神職の方々によつて昭和四十年迄斎行して下さいました。これらの祭典、行事を通じて三者の関係は深く結ばれました。昭和三十七年二月十四日に沖縄県

護国神社復興期成会（会長具志堅宗精琉聴会会長）が結成され本格的な護国神社本殿拝殿の建設に着手、県内経済界等からの大口寄付、各市町村一世帯五セントの拠出金、県内の小中学童からの二セント募金、本土関係各団体からの寄付金等の暖かい募金にて約七十坪の現在の本殿、拝殿が昭和四十年十一月十九日完成、神社として二応の風格を持つことが出来ました。このように護国神社は立派に再興出来ましたが奥武山公園二帯は交通不便且つ道路整備で雨が降れば泥んこになる辺鄙な場所です。遺族者も少なく寂しい神社でした。遺族会青年部が大晦日に神社に集まりキャンプ・ファイヤをして元旦を祝う行事が数年続けられています。昭和四十八年の沖縄祖国復帰記念の若夏国体で現在の奥武山陸上競技場が完成して周囲は著しく環境が整備され徐々に参拝者が増えて参りましたが神社の存在が余り理解されていない状況でした。昭和四十六年に就任した加治順正事務局局長は参拝者を増やすために大変心労された様です。従兄弟の一橋一巳氏（現護国

神社副会長）の協力を得て正月前に電柱にポスターを貼り出したり、花火を数発打ち上げたり、露店を出店させたり駐車場を確保したりの諸計画を積極的に展開して市民の理解を得る努力を続けました。当然神社職員も一体となって活動しております。其の努力によつて参拝者が次第に増えて参りました。平成二十七年の実績は初詣客二十六万七千人を数え、其のほか神社に於ける祈願祭が二千九百七十四件、七五三で九八七名、神職の出張祭典（地鎮祭、企業の竣工式、開所式等）三三七件の隆昌となっております。この隆昌は御祭神のご加護によるものと感謝に堪えません。私は平成十六年六月より護国神社代表役員（会長）になっております。更に一層三者が相協力し合つて所期の目的達成に努力を捧げたいと存じます。最近特に痛感する事は春・秋の例大祭に遺族の方が高齢になられて参列者が少なくなっている事です。戦没者に連る子、孫の方々が積極的に参列される様、切に望んで止みません。以上申し上げて私の五十年の所感と致します。

# 「終戦七十年を終えて」

宮司 挨拶



今年の三月九日、全国の護国神社五十二社の宮司四十七名、宮司代理五名が、天皇陛下に対し御礼の言上のため皇居内長和殿に参内しました。

それは、去年七月に終戦七十年を迎えるにあたり、全国五十二社の護国神社に対し賜りました幣帛料御下賜に対する御礼で、これまで十年毎の終戦の年に行なわれてきました。

今回も全国の護国神社で組織する全国護国神社会を代表し、福井県護国神社宮司の宮川脩会長が代表の御礼言上を行い、それをお受けになられた天皇陛下より次のお言葉を賜りました。

「終戦七十年を迎え、昨年は護国神社にとつて重い一年であったと思います。国のために亡くなられた方々と、その遺族のために尽くしていただきご苦労に思います。これからも体を大切にされ、高齢になった遺族の心の支えとなりますよう、それぞれの護国神社のお

守りをしていくことを願っております。」

今回、陛下より賜りましたお言葉は、戦没者をお祀りする私達護国神社の神職にとつて大変有難く、また、深い意味があるお言葉だと思われまします。天皇皇后両陛下におかせられました。これまで慰霊のために国内外各地を御巡拝されてきました。

まず平成六年二月十二日に米軍との戦いで日本軍が玉砕した硫黄島を訪れ、日米の戦没者を慰霊なされました。そして終戦から五十年の平成七年には、七月二十六日に長崎市の「平和祈念像」、その翌日に広島市の平和記念公園の「原爆慰霊碑」をそれぞれ訪れになり、原爆犠牲者に対し供花をなされました。また八月二日に糸満市の「国立沖縄戦没者墓苑」にて、沖縄戦での犠牲者に対し礼拝いただき、翌日三日に「東京都慰霊堂」にて東京大空襲での犠牲者に対する追悼をなされました。終戦六十一年の平成十七年六月二十七日、二十八日には、サイパンを御訪問なされ、まず先の大戦にて散華された方々を祀る「中部太平洋戦没者の碑」の他に、主に民間人が身を投げたスーサイドクリフやバンザイ

クリフにて黙祷を捧げられ、予定にはなかった「おきなわの塔」と「太平洋韓国人追念平和塔」にもお立ち寄りになられ御拝礼されました。

終戦七十一年の平成二十六年に再び沖縄、長崎、広島へと巡拝されております。特に六月に訪問された対馬丸の遭難学童を祀る那覇市若狭に建立されている「小桜の塔」へは、陛下と同年代の犠牲者として陛下の強いお気持ちからの御参拝であつたと伺っております。

また、今年一月二十六日から三十日にかけて国交正常化六十周年に際し御訪問なされたフィリピン共和国はまだ記憶に新しく、去年の平成二十七年四月八日から九日にかけてもパラオ共和国と激戦地であつたペリリュー島へご訪問されています。

このように天皇皇后両陛下におかせられました。終戦から節目となる年に、国内外の激戦地や多くの犠牲者を出した地にて慰霊巡拝をなされてきました。

そして、いずれの地に於いても御遺族や戦争体験者の方々とお話をする時間を大切にされ、予定時間をオーバーすることも度々あつたこととす。

両陛下のご訪問の後に、それぞれの御遺族や戦争体験者の方々からは、「戦争で犠牲になった肉親や戦友達がさぞかしお喜びになっているであろう」という言葉があり、心からの感謝の気持ちがあります。陛下のお言葉にありましますように、七十年間亡くなった方々を想い続けてきた御遺族の方の歳月の重さを我々護国神社の神職は、一時も忘れてはならないと思ひます。そして七十年前の戦争で散華された方々の「想い」も忘れてはなりません。

今も当社には七十一年前の沖縄戦当時のことを昨日のことに思ひ出しながら参拝される方がいらつしやいます。先日もお孫さんに車いすを押され、九十八歳の沖縄出身の戦友の方が軍隊時代の帽子を被り、戦友に語りかけるようにお参りされておりました。また、毎年御命日に、わざわざ北海道から三世代でお参りにこられる御遺族の方もいらつしやいます。

これからも護国神社は、御遺族や戦友、戦争体験者の方々にとつて心休まる場であるとともに、戦争で犠牲になられた方々が一番望んでいた「平和」を象徴する神社でありたいと考えています。



終戦七十年臨時奉幣祭並びに  
第五十七回秋季例大祭

平成二十七年十月二十三日午  
後一時、終戦七十年臨時奉幣祭  
並びに第五十七回秋季例大祭が  
斎行されました。

奉幣祭とは陛下から御下賜さ  
れた幣帛料や幣饌料（お供え）  
をご神前にお供えすることで、  
当神社はこれまで十度以上にわ  
たり賜っており、その都度、御  
英霊に奉告申し上げてきました。  
祭典開始を告げる太鼓が鳴る  
と辛櫃（幣帛料を納める入れ物）  
を先頭に参進が始まり、宮司に  
よつてご神前にお供えされました。  
黙祷、国歌斉唱、祝詞奏上の  
あと、大祭委員長座喜味和則氏  
の祭文が奏上され「戦後七十年  
を迎えるにあたり戦争体験者は、  
急速に減りつつあります。しかし、  
私達沖縄県民は、あの忌まわし  
い沖縄戦の傷跡を忘れることな  
く戦争体験者が語り部として平  
和の尊さを次の世代に継承し、

国の礎となられた御霊を守護神  
として永久にお祀り申し上げる  
ことが、御英霊に報いる道と信  
じております。」と申し上げら  
れました。

次に沖縄県遺族連合会会長宮  
城篤正氏の祭文奏上では「那覇  
の十・十空襲から七十二年、今で  
も地下に埋没した遺骨が発見さ  
れており、宅地造成工事現場等  
では、米国製艦砲弾の不発弾が  
発見されております。終戦後、  
私達遺族は、廃墟と化した故郷  
の復興のため心血を注いで努力  
を致しました。その生活は、困  
窮を極め、苦難に満ちた日々で  
したが御英霊の面影を胸に秘め、  
悲しみや心の痛みを耐え、精一杯  
生き抜いてまいりました。今日  
我国は経済や社会全体が著しい  
発展と成長を遂げ、豊かで平和  
な生活を享受しております。こ  
れ偏に御英霊のご加護の賜物と  
深く感謝しております。」と戦  
後七十年への思いを申し上げます。その後、MOA山月光

輪花からの献華を賜り、巫女に  
よるみたま慰めの舞が奉奏され、  
終戦七十年臨時奉幣祭並びに第  
五十七回秋季例大祭は厳粛に滞  
りなく斎了されました。



社務日誌抄

平成二十七年十月〜平成二十八年三月(敬称略)

平成二十七年

- 10月
  - 2日 神宮大麻頒布始祭(波上宮) 宮司参列・木村権欄宜奉仕
  - 4日 小笠原流煎茶道沖繩県支部 正式参拝
  - 9日 明治神宮代々木会九州・四国・山口ブロック 正式参拝
  - 10日 沖繩県空手道連合会 正式参拝
  - 15日 なくやけの碑慰霊祭 会長参列
  - 17日 那覇まつり成功安全祈願祭 正式参拝
  - 22日 神嘗祭通拝式 正式参拝
  - 23日 終戦七十年臨時奉幣祭並びに第五十七回秋季例大祭
  - 25日 生光神明宮例大祭 宮司参列
  - 27日 安里八幡宮例大祭 局長参列
  - 29日 普通天満宮例大祭 宮司参列
  - 31日 栃木県遺族会自由参拝 正式参拝
  - 31日 念法真教慰霊法要 局長参列
  - 11月
    - 3日 明治祭通拝式 正式参拝
    - 4日 因伯の塔慰霊祭 宮司・松元出仕奉仕
    - 5日 福岡市遺族会 正式参拝

- 6日 岡山県遺族会 正式参拝
- 山口県遺族連盟 正式参拝
- 千葉県遺族会 正式参拝
- 前田高知平和の碑慰霊祭 正式参拝
- 木村権欄宜・松元出仕奉仕 正式参拝
- 防長英霊の塔慰霊祭 宮司参列
- 大分県神社庁 正式参拝
- 阿含宗 正式参拝
- 裏千家淡交会沖繩支部 正式参拝
- 阿含宗慰霊祭 正式参拝
- 宮司・松元出仕・屋宜巫女奉仕 正式参拝
- 静岡の塔慰霊祭 正式参拝
- 長崎県戦没者慰霊奉賛会正式参拝 正式参拝
- 静霊奉賛会 正式参拝
- 三重県遺族会 正式参拝
- 三重県遺族会 正式参拝
- 長崎県遺族会 正式参拝
- 福岡県遠賀町遺族会 正式参拝
- 長崎の碑慰霊祭 宮司参列
- 岩手県遺族会 正式参拝
- 大分県遺族会 正式参拝
- 青森県遺族会 正式参拝
- 富山県南方戦没者沖繩慰霊塔奉賛会 正式参拝
- 島根県遺族会 正式参拝
- 熊本県遺族会 正式参拝
- 大分の塔慰霊祭 正式参拝
- 木村権欄宜・大城巫女奉仕 正式参拝
- 広島県遺族会 正式参拝
- 香川県遺族会 正式参拝
- 愛知県遺族会 正式参拝
- 北海道連合遺族会 正式参拝

- 14日 兵庫県遺族会 正式参拝
- 住吉神社例大祭 宮司奉仕
- 高知県遺族会 正式参拝
- 土佐の塔慰霊祭奉仕参列 参列
- 宮司・仲巫女奉仕・局長 参列
- 佐賀県遺族会 正式参拝
- 徳島県沖繩慰霊参拝団 正式参拝
- 奈良県遺族会 正式参拝
- 宮崎県遺族会 正式参拝
- 新潟の塔奉賛会 正式参拝
- 岐阜県遺族会 正式参拝
- ひむかしの塔慰霊祭 宮司参列
- 茨城県遺族会 正式参拝
- 表千家不白流 正式参拝
- 新嘗祭 正式参拝
- 末吉宮例大祭 宮司参列
- 埼玉の塔管理委員会 正式参拝
- 熊本県植木町遺族会 正式参拝
- 愛媛の塔慰霊祭 宮司参列
- 福島県遺族会 正式参拝
- 神奈川県遺族会 正式参拝
- 山形県梨郷神社奉賛会 正式参拝
- 福島の塔慰霊祭 正式参拝
- 宮司・屋宜巫女奉仕 正式参拝
- 和歌山県遺族会 正式参拝
- 愛媛県遺族会 正式参拝
- 豊見城市遺族会 平和祈願
- 12月
  - 13日 高崎神社敬神会青年部 正式参拝
  - 23日 天皇祭 正式参拝
  - 26日 皇室崇敬会 正式参拝
  - 31日 神符守札清祓並びに奉製奉告祭 助勤者安全祈願祭
  - 大祓式・古神札焼納祭・除夜祭

- 平成二十八年
  - 1月
    - 1日 歳旦祭
    - 3日 元始祭
    - 15日 古神札焼納祭
    - 23日 修養団沖繩がじまる会
    - 3日 SYDボランティアの会
    - 15日 SYD慰霊祭
    - 25日 靖國神社 村田欄宜 正式参拝
    - 27日 節分祭
    - 3日 日本和裁士会沖繩県支部針祭
    - 8日 長野県遺族会 正式参拝
    - 9日 JYMA日本青年遺骨収集団 正式参拝
    - 10日 紀元祭
    - 11日 沖繩京都の塔奉賛会 正式参拝
    - 14日 山形県神社庁 正式参拝
    - 16日 山形県慰霊祭 宮司参列
    - 17日 山形県神社庁 正式参拝
    - 22日 皇學館大学灰谷ゼミ 正式参拝
    - 23日 なにわの塔慰霊祭 正式参拝
    - 25日 大阪府神社庁 正式参拝
    - 27日 福岡県神社庁 正式参拝
    - 27日 普明会教団 正式参拝
    - 27日 那覇遺族会 正式参拝
  - 2月
    - 2日 神戸市神道青年会 正式参拝
    - 5日 那覇市文化協会茶道部 正式参拝
    - 9日 熱田神宮OB会草薙会 正式参拝
    - 20日 北海道沖繩会 正式参拝
    - 20日 春季皇霊祭通拝式 正式参拝



奉納者御芳名

平成二十七年十月二十八日(順不同・重複あり)

Table listing names and titles of donors, organized by region (e.g., 大分県, 宮城県, 東京都). Includes a '戦没者慰霊の会' section at the bottom right.



献灯 奉納者御芳名

Table listing names and titles of donors, organized by region (e.g., 恩納村遺族会, 那覇市, 沖縄県).



# 靖國神社御創立百五十年 記念事業のご案内

靖國神社では平成31年に御創立150年の節目を迎えるにあたり平成28年より記念事業を実施するための奉賛金を募っております。今回の記念事業では「本殿・拝殿・霊璽簿奉安殿関連工事」、「靖国会館 内装回収・休憩所設置工事」「外苑設備工事」などを計画しています。皆様ご協力頂ますようよろしくお願いいたします。

募金期間 平成31年12月末

一口 金5,000円(何口でも可)

問合せ 靖國神社崇敬奉賛会事務局

住所 東京都千代田区九段北3-1-1

TEL03-3261-8143



この度、三月二十四日から二十六日にかけて、沖縄県神社庁主催の伊勢参宮旅行に参加させていただきました。初日に外宮、二日目に内宮を参拝し、その後は吉野神宮、大神神社、住吉大社、生田神社と関西の由緒ある神社を巡拝いたしました。伊勢神宮では、初めての参拝という事や御垣内での拝礼が出来た事もあり終始感動するばかりでした。外宮参拝後はせんぐう館を見学させていただきました。式年遷宮や神宮についても色々学ぶ事ができました。三月末で桜の季節より少し早かったので、参拝者の数もだいぶ落ち着いており、神宮や他神社も静かでゆっくりとした雰囲気でした。また、伊勢神宮、住吉大社、生田神社では参拝の際に御神楽を奉奏していただき、それぞれの伝統的な舞を見る事ができたのは巫女としても大変貴重な経験となりました。今回見た事や学んだ事を活かし、今後も神明奉仕に励んでいきたいと思えます。

『伊勢さん初まいりと奈良・大阪・神戸神宮神社巡拝旅行』  
に参加して  
巫女 屋宜亜希子

## お詫びと訂正

うむい22号の6頁

藤田博久様の文末正しくは左記

矢弾尽き 天地染めて散るとも  
魂還り 魂還りつつ 皇国護らんと  
なります。

また11頁奉納者御芳名の群馬県「江積栄」様のお名前を「江積栄様」と誤記してしまいました。

ここに訂正してお詫びを申し上げます。

## 今後の主な祭典のご案内

- 4月23日 第58回春季例大祭
  - 6月23日 沖縄全戦没者慰霊祭
  - 8月15日 みたま祭り
  - 10月23日 第58回秋季例大祭
- どなたでもご参列できます。

## お知らせ

次回うむい24号より年一回、春の発刊のみとなります。

発行 平成二十八年四月

発行所 沖縄県護国神社

〒900-0026

沖縄県那覇市奥武山町四四番地

TEL098-857-2798

FAX098-857-7917

HP www.okinawa-sokoku.jp

編集担当 高良 奈緒矢

印刷所 株式会社近代美術